

10 社会への活用を実感できる6年の学年末

知・技
思・判・表
態度

6年 学年末「ひろがる算数」

キャリア教育の一環として、算数が様々な職業につながっていることが実感できる内容を紹介しています。

社会で活躍される5名の方にインタビューを行い、今のお仕事に算数がどのように活かしているか教えてくださいました。



アーティスト
野老 朝雄 さん



ピアニスト
中島 さち子 さん



スポーツデータの収集・活用
岡田 昇峰 さん



古生物学者
佐藤 たまき さん



パティシエ
小山 進 さん

6年 p.244



みなさんは、おかしをつくったことがありますか。おかしづくりでは、算数で学習したことをたくさん使います。
おいしいおかしをつくるためには、手早さ、ていねいさ、正確さがたいせつです。そのために、レシピには、材料の分量、焼く時間や温度などが正確な数でかかれています。



重さをはかりながらおかしをつくるようす



きまった時間と温度でおかしを焼くようす

新しいおかしは、どのようにして生まれるのですか？

わたしのお店には、例えば道で出会った花の香りや、子どものころに好きだったこん虫の色をヒントにして生まれたおかしがあります。

新しい味を生み続けるには、日常の中でいろいろなことに興味を持ち、「なぜだろう」と探求する気持ちがたいせつです。

たくさんのおかしをつくるのに、どんなくふうをしていますか？

新しいおかしは、たくさんつくる前に、まず少量で試作します。そのときには、レシピに分量などを正確に記録します。

例えばその分量を10倍にすると、10倍の数のおかしができますが、たくさんつくったときにもおいしさが変わらないように、さまざまな調整をくりかえします。

244

とり上げたテーマは、アート・音楽・スポーツ・化石・お菓子の5つです。

6年 p.236



アーティスト
野老 朝雄 さんに聞く

アート × 算数



みなさんは、どんな美しいものと出会ったことがありますか。美しいものには、算数や数学がかくれていることがあります。
わたしは、紋様をテーマにして作品をつくっています。東京2020オリンピック・パラリンピックのエンブレムもその1つで、世界のいろいろな人がつながることを表現した作品です。
下の作品は「人」という漢字でつくった、熊本地震の仮設住宅支援プロジェクト KASEI で使われたものです。この作品も人とのつながりを表現したものです。



九州建築学生仮設住宅環境改善プロジェクト (KASEI)

紋様は、どのようにしてつくっているのですか？

算数の学習で、しきつめようをつくったことがあると思います。それに似ています。しきつめられる形が1つみつくと、その形を変形したり、その形の中にちがう形をはいりして、さまざまに発展させることができます。

しきつめる形そのものの美しさや、美しく見える並べ方には数学が関わっています。

東京2020エンブレムには、どんなくふうがありますか？

エンブレムをよく見ると、2種類の長方形と1種類の正方形がたくさん並んでいます。この長方形と正方形は、それぞれ、2種類のひし形と1種類の正方形の中にかいた形です。それを、大きな正十二角形の中にしきつめることで、エンブレムのような紋様がうまれます。このように、数学的な見方や考え方を使って、美しさを追究しています。

236

インタビュー動画はこちらからチェック！

